

第77回 梧桐会総会開催

5月11日(日) 於・大崎高校



第60号

平成26年4月1日発行
発行所 梧桐会
事務局・東京都大田区新蒲田
3-18-1-507 渡部良彦
TEL/FAX 03(3730)8117
編集人 渡部良彦
発行人 川村治
印刷所 関英進

平成25年度卒業生進路 (太字は国立大学) 平成26年3月末現在

大学	学部	合格		進学	
		男子	女子	男子	女子
亜細亜大学	法	2	1		
跡見学園女子大学			1	1	1
江戸川大学	社会	1	1		
大妻女子大学	社会、社会情報		4		4
学習院大学	経済	1			
神奈川大学	経済、法、人間関係	2	1	2	1
川村学園女子大学	生活創造		1		1
関西外語大学	外国語		1		
関西大学	外国語		1		1
関東学院大学	経営、経済、理工	8	1	5	1
京都産業大学	外国語		1		
工学院大学	情報	2		2	
国士舘大学	経営、政経、法	2	2	2	2
駒澤大学	経営、文、仏教	2	1	1	
三育学院大学	看護		1		1
産業能率大学	経営、マーケティング	1	2	1	2
実践女子大学	文		1		1
湘南工科大学	工	1		1	
杉野服飾大学	服飾	1		1	
聖徳大学	児童		1		1
洗足学園音楽大学	音楽	2		2	
創価大学	通信教育	1		1	
大正大学	人間	2	3	1	3
大東文化大学	国際関係		1		1
玉川大学	農、芸術	2		2	
千葉商科大学	商	1			
中央大学	文		1		1
鶴見大学	文	3		1	
帝京科学大学	こども		1		1
帝京大学	経営、経済、文	4	3	1	3
帝京平成大学	現代ライフ	3	1	2	1
田園調布大学	こども未来	1		1	
桐蔭横浜大学	スポーツ健康政策	2		1	
東海大学	情報通信、理工	3		2	
東京医療保健大学	看護		1		1
東京学芸大学	生涯スポーツ	1		1	
東京家政大学	看護、家政		2		2
東京工科大学	デザイン、メディア	2		2	
東京工芸大学	体育		1		1
東京電機大学	理工	1		1	
東京都市大学	メディア情報	1		1	
東京未来大学	こども心理	1		1	
二松学舎大学	文、国際政治経済		3		3
日本大学	経済、法、文理、理工、生産工学	3	2	3	1
文京学院大学	経営	1		1	
法政大学	経営、経済	1	1	1	1
武蔵野大学	文、経済、法、人間科学	1	4	1	4
明星大学	不動産	1			
明治大学	文、政治経済、経営	3		1	
目白大学	経営、社会	5	1	2	1
横浜商科大学	商	4		4	
立正大学	文、経営、法	3	2		1
了徳寺大学	健康科学	1	1	1	1
54(進学48)大学		76	47	51	42

短期大学	専攻	男子		女子	
		合格	進学	合格	進学
亜細亜大学短期大学部	経営、現代タウンビジネス	1		2	
有明教育芸術短期大学	こども教育		2		
大妻女子大学短期大学部	家政			4	
洗足こども短期大学	幼児教育、児童教育			2	
鶴見大学短期大学部	保育			1	
戸板女子短期大学	服飾芸術、食物栄養			2	
東京成徳大学短期大学部	幼児教育			1	
日本大学短期大学部	ものづくりサイエンス、建築・生活		2		
立教女学院短期大学	現代コミュニケーション			1	
9短期大学	合計数			5	13

専門学校	就職	2011	2012	2013	
早慶上智 MARCH		1	2	6	4
成成獨國武明学		0	1	1	0
日東駒専		7	6	8	5
大東亜帝国		13	9	17	12

区分	教員(科目)	氏名	転出先学校名	教員(科目)	氏名	前任校	課程
転出	公民(政経)	岡田 恵吾	中野工業	公民(政経)	新倉 大輔	第三商業	全
転出	数学	大貫 敏章	浅草	数学	田原 北斗	小岩	全
転出	数学	田草川 直希	葛西南	数学	米倉 拓紀	新規採用	全
退職	理科(地学)	野中 悟	府中東	理科(地学)	山口 哲男	農芸	全
退職	英語	佐野 君代		英語	江口 千鶴	雪谷	全
転出	英語	菅野 徹	深沢	英語	加藤 哲	つばさ総合	全
転出	英語	青木 巧	世田谷泉	英語	長友 正実	新規採用	全
転出	保健体育	加藤 真弥	雪谷(定)	保健体育	伊堂寺 樹美	総合工科	全
転出	養護教育	伊藤 いづ子	六郷工科	養護教育	小野村 富江	復	全
退職	経営企画室長	友成 和弘	再雇用 世田谷総合	経営企画室長	廣見 卓哉	校町	全
退職	主任	櫻井 豊	再雇用 大塚ろう	主任	富江 聡	足立	全
転出	主事	関根 絵都子	教育庁	主事	土橋 早季子	教育庁	全
				主事	濱田 友美	新規採用	全

ご挨拶



梧桐会会長 川村 治

今年、東京でも四十五年ぶりの大雪に見舞われるなど、全国的に寒暖の差が激しい春の気候となりましたが、梧桐会会員の皆様には如何お過ごしでしょうか。日頃より同窓会の活動に対し、大きなご理解ご支援を頂戴しておりますことに厚く感謝申し上げます。さて、今年も同窓会総会を五月十一日(日)母の日に大崎高校にて第七七回の総会を開催致します。昭和十二年に同窓会が誕生してから人で申せば「喜寿」を迎えた事となり、大変喜ばしい限りであります。又数ある都立高校の中でも毎年同窓会を開催している所はあまり無いと思ひ、継続してきたことへの誇りを感じて居ます。本年は、総会開催の前に、大崎高校の学校紹介DVD(部活動他)を流して頂きます。卒業生が全員入会をして頂きまして、誠に嬉しい限りであります。梧桐会の財政面ですが、毎年の新入会員から頂く身会費七千円と会員の皆様からのご寄付により活動をカバーする事としておりますが、消費税増税による会報郵送費や印刷代の増加もあり、中々厳しい状況ではございますが、今後とも経費を極力抑えながら活動を推進して参ります。ここで事務局からのお願

いですが、ここ数年、会報に掲載する原稿のご依頼を致しまして、なかなか集まらない状況が続いており、会報の編集作業に大変苦戦しております。在校時の思い出や近況等の寄稿を是非積極的にお願い申し上げます。平成十九年から梧桐会の公式ホームページを開致しました所、大変多くの方々にアクセスして頂き、住所変更のご連絡を始め数々のご意見やご要望を頂戴致しました事改めて深く感謝申し上げます。今後とも梧桐会ホームページをご活用頂き、会員相互の交流を深めて頂きたいと願っております。尚、事務局のFA Xも稼働しておりますのでインターネットをご利用しない会員様には、こちらの方へ是非皆様方のご意見等をお寄せ頂ければ幸いです。

「誠の道」の歩みを通して「自信と誇り」のある生徒を育成



都立大崎高等学校長 牛来 聡

昨年度も、本校の教育活動の充実・発展に向けて、同窓会員の多くの皆様からご支援をいただき、教育活動が充実した一年でした。ここに、同窓会員の皆様に深く感謝を申し上げます。今年度の教育活動の方向性(理念)については、以下のような取り組みをしていきたいと思います。同窓会の皆様には、引き続き今後とも一層のご支援をよろしくお願いいたします。

本校は、生徒がこれからの社会で「自信と誇り」をもって生活ができるようになるために、社会に出る前に身に付けなければならぬ「礼作法(おもてなしの心)や学力向上に取組み、一人ひとりで自立(自律)している生徒の育成を目指してまいります。そのため、本校はこれまで取り組んでいる「一時を守り、場を清め、礼を正す」の指導を基本としながら生活指導、学習指導、進路指導(キャリア教育)に力を入れ、「自信と誇り」のある生徒をばぐんできてまいります。

この「自信と誇り」ある生徒の育成には、何が必要であるかを本校の校歌の歌詞から考えたかと思ひます。本校の校歌の歌詞の一部に「正しく誠の道に立つとき」とあります。「誠の道」とは何でしょうか。「道」とは、人間の理想の生き方のことです。このことは、国際理解と世界平和のために活躍した教育者である新渡戸稲造が伝えた「武士道」の中にヒントがあるかと思ひます。武士道は、美しく、気高く、立派で、人々から尊敬されるような人間になるためには、どんな心がけで日常生活を送ればいいのか、そういうことを説いているのが武士道です。武士道の中で大切にしているものとして、「勇氣」、「礼儀」、「勤勉」、「誠実」、「忍耐」などが挙げられます。

慢(我慢)して耐えることです。毎日心がけて実践をいくことにより、人間としての奥行きや広がり生み出されてくるというものです。本校の校歌の歌詞にある「正しく誠の道に立つとき」の「誠の道」とは、このような意味と捉えられ、教育活動の重要性について改めて気がかされます。本校は、「誠の道」についての指導を通して、生徒に「勇氣」、「礼儀」、「勤勉」

「誠実」、「忍耐」などを毎日実践するように心がけて、「自信と誇り」をもって社会で活躍できる生徒の育成に取り組んでまいります。

「誠実」、「忍耐」などを毎日実践するように心がけて、「自信と誇り」をもって社会で活躍できる生徒の育成に取り組んでまいります。

第77回 梧桐会総会

日 時 5月11日(日)母の日
12時30分(受付開始)
13時~16時
会場 大崎高校 1階食堂
会費 2,000円(新卒者 無料)
当日会場でお支払いください。
プログラム 会長の挨拶・学校長の挨拶
会務報告・会計報告・その他

総会が始まる前に、現在の大崎高校の様子を紹介したDVDを放映しますので、お早めにお集まりください。

※当日、お手伝いをしていただける方がいらっしゃいましたら、10時30分までに会場にお集まりください。よろしくお願ひします。

大崎高校野球部部員諸君！ 旗は甲子園に！

都立の雄として国立、城東、雪谷、小山台に続け！



大崎高校野球部元主将・投手 遠山 勉 (昭和33年度卒)

57年前の大崎高校野球部

私たちの世代が卒業してから五十余年。大崎の野球部はずっと軟式が続いていました。そのため、毎年春夏の甲子園の季節が来るたびに、OB・OGたちは少なからず寂しい思いをし

たものです。それがいま新たに硬式野球部として生まれ変わり、これからは甲子園をめざす夢を現役諸君と分かち持つことができるようになったのです。たとえその道のりは遠く険しく

一回戦敗退が続くとしても、これほど誇らしいことはありません。同期の仲間の多くも同じ思いを抱いたようでした。

カメラが趣味の織田邦彦君はさつそく去年七月の東

昨年7月、同期の織田邦彦君から、母校大崎高校野球部が軟式から硬式に変わり、高校球児最大の目標である甲子園を目指して活動を始めたとの報告がいちご会(昭和33年度卒業生の会) ホームページにアップされ、真つ先に脳裏に浮かんだのは大崎入学後、硬式野球部に入部したが硬式はなく、やむなく軟式野球部に入部その後キャプテンとして投手として活躍していた同期の遠山勉君であった。また、私が昭和34年大崎卒業と同時に立教大学に入学、ここで日本拳法部を創部し、現在監督として学生の指導に当たっているが、創部当時の苦勞を思い返すほどに、また今時の若者を指導する難しさ、それに伴う悩みを思いつく時、硬式になって間もない野球部、ある意味新たに野球部が創部されたと言っても過言ではない現状において、これを統率される橋本康徳監督のご苦勞は如何ばかりかと思ひ、またどの様に指導されておられるか、どの様な将来像をお持ちか、ぜひ一度お会いして同じ体育会系の指導者としてお話しをお伺いしたいと思ひ監督にその旨お願ひしたところ、新学期間もお忙しい中時間を割いて下さり、昨年監督と部員諸君にお会いした織田君、野球部OB遠山君、私と今日が実現した次第です。

57年前、野球好きの一生徒が野球部入部への希望を持ち大崎高校に入学しました。

戦後十年を経たとは言え、まだまだ経済的にも復興途上にあり、グローブ、バット等自前の用具を準備する経済的余裕もなく、入部を諦めるを得ない生徒がいた様な時代でした。

入学後に知ったのですが、当時の野球部は硬式野球ではなく軟式野球であり、その為大きな失望感を味わい、その大ききから入部を諦め卓球部に入部しました。

かたや当時の野球部は狭い校庭の中でいろいろ工夫しながら活発に活動していました。

内野守備、走塁、バッテリーの強化、好球必打の打撃練習など緻密かつ創意工夫した練習をしておりました。

当時の校庭は野球人から見てとびつくりするほどの



東東京大会に出場して 神宮球場 2013.7

東京大会に、重い機材をかついで応援に駆けつけました。神宮球場で行われた開会式と、その翌日、第二球場で行われた一回戦の試合。七三歳の身体には少々きつい炎天下に二回も出場です。十三人の選手が大声援を浴びながら胸を張って入場行進をする晴れ姿は、見事な歴史的写真になり、私たちの同期会のHPに大きく掲載されました。

昨今、若者、特に大学生

狭さで、右翼方向はすぐ大井町線が走る線路があり、その狭さから右翼フライをあげることは不可能で、その為外野守備が充分出来ず、その分特に内野守備に力を注いでいました。それを見ていると私の野球への虫が徐々に蠢き始めていました。その様な折、当時昼休みにソフトボールが盛んで、私はよく線路にまで届く右翼フライを打っていました。それが野球部の上級生の目にとまり、野球部への勧誘を受け、野球への思いが断ちがたかった事もあり、一年の六月から正式に部員となりました。

その時の部員は、一年六名、二年十名、三年四名の計二十名でした。全員野球好きの集団で、狭いグラウンドを効率よく使い、守備、走塁、バント、素振り、と猛烈な練習をこなしていました。

当時軟式野球の都大会は杉並の「上井草球場」で行われており、それに出場するには地区(ブロック)大会が開催される東大附属高校での予選試合に勝ち抜くことが必要でした。

ここに於いて猛練習の結果、私が二年生の初め、プロック優勝を成し遂げ、都大会に進出しました。残

求める若者が少なくなっているのは事実です。また、指導者側もセクハラ、パワハラ、〇×ハラと、何かと一歩引かざるを得ないのが現状です。この傾向は高校においても同じではないかと推測されます。

しかしながら最近では企業採用者から、「かつては新入社員への教育は三ヶ月有れば充分だったが、今は挨拶の「あ」の字から教えないければならず、半年超の時間が必要だ」とよく聞きます。

そして雰囲気的に、「昭和に戻ろう」との声も聞かれるようになりました。昭和の時代は体育会系の学生が多く、彼等は、上級生部員に対する敬う心、礼儀、同期部員どうしの強い絆、責務への連帯感、下級生部員に対する配慮、思いやり、そしてそうした中で培われる、お互いを、理解出来る、理解するコミュニケーション(報告・連絡・相談)いわゆるホーレンソウ)を有しております。そして何よりもメリハリの効いた言動、挨拶、身嗜み。これがそのまま社会生活

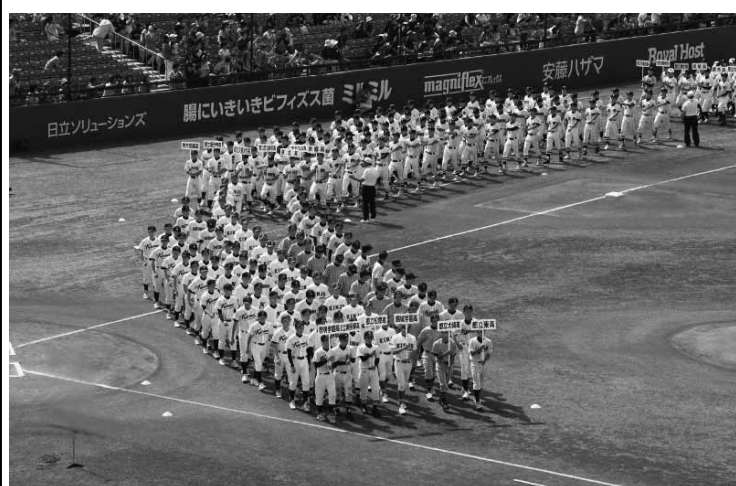
念ながら一回戦で敗退しましたが(遙か昔の事で対戦相手は忘却の彼方へと行ってしまいました)、大崎高校野球部初の快挙でした。このとき、当時の甲藤太郎校長がネット裏で熱の入った応援をして下さったのが未だに脳裏に焼き付いております。

新生の硬式野球部は、昨夏の東京大会は一回戦で大敗したものの、続く秋季東京大会で一回戦を勝ち抜き、創部半にして初陣を飾りました。選手・監督の喜びを思うとき、私の時代のプロック大会優勝の感激が昨日のように思い出さ

に当てはまり、体育会系出身者は既にこれが出てくるので再評価を受けつつあるからです。

そういう状況の中、東京オリンピックが決まり、再び体育会チームが起って来るであろう事は充分期待でき、その動きの中にあつて、我が大崎高校野球部が球児最大の夢である甲子園を目指せる「部」になった事は、将来においてのその可能性を手にしたと言つ事であり、また今後の活動・活躍が大いに期待できるものであり、私達の心を揺さぶる活躍をしてくれることと確信しています。

いま、現役選手の祖父祖母世代の老先輩達をはじめとして若者男女の同窓生が、心から若い後輩諸君の活躍を応援し見守ると同時に、大崎高校の名を高らしめることを期待しています。加えて、部員諸君が、大崎高校野球部出身者として、礼儀、礼節、身嗜みを失うこと無く、胸を張り、自信と誇りを持って将来への道を進んでくれますことを、私達同期の間でも、今夏の東京大会の一回戦を皆



東京大会での入場行進 神宮球場 2013.7

で応援しに行こうという話を持ちあがっています。試合の日、元氣な七三歳のOB・OGたちがスタンドに集い、試合終了後はミニ同期会を開いて氣勢を上げる……そんな楽しく愉快な光景が実現するよう願っています。

最後に、この梧桐会報をお読みにした同窓の方々にお願ひがいたします。

我が大崎高校野球部に対し更なるご声援を賜るとともに、同窓会が、また特に野球部OBの方々はその活動の一環として、対談の中にもあります道具等のご援助を頂ける様な輪が広がればこれに過ぎる幸せはなく、心より願ひ申し上げます。第でございませう。

田畑 精一 (昭和33年度卒)

寄付のお願い

梧桐会の運営は、卒業生の終身会費によってまかなわれています。その中から梧桐会報の発行、郵送料(これが大半を占めます)、総会などに使われています。本年4月から消費税も8%となり、そのため、郵送料等も値上げとなり、今後の会の運営にも影響してきます。

つきましては会員の皆様方にご寄付を頂戴したいと存じます。同封のお名前を打ち込んだ払込取扱票をご利用いただき、最寄りの郵便局にて払い込みをお願いいたします。金額はお気持ちで結構です。宜しく願ひ致します。また、部活動へのご支援も願ひしたいと存じますので、併せましてよろしく願ひいたします。

橋本康徳監督との対談



左から遠山さん、伊堂寺顧問、橋本監督、田畑さん
2014.4.12 大崎高校グラウンドにて

① 女学校の時代はともかくとして、戦後男女共学になってから六十年以上、大崎に硬式野球部が出来なかったのは何故でしょうか。

A おそらく学校立地条件が一番に挙げられると思います。昔のグラウンドは今の校舎のところにあり東急大井町線に隣接していたためボールなどが線路に入り込んだりした場合の事故が懸念されていたため難しかったのだと思います。

2番目には、校長を含め教職員の硬式野球に対する安全面やさまざまな状況に対する理解度が低かったためだと思えます。

3番目には教員で、硬式野球を指導できる教員がいなかったためではないかと思われま。

② それが昨年、ようやく誕生した陰には橋本先生の大変な尽力があったと思われませんが、いまそれを再現することができた要因は何でしょうか。過去には、何回か誕生寸前まで行きながら挫折した歴史があるのでしようか。

A 過去の歴史の中で多少硬式野球部誕生の話があったとも聞きますが、やはり指導者の関係や教職員の関係からダメだったようです。今回百年の歴史の中から

誕生した経緯として一番に挙げられるのが、牛来校長の学校経営方針にあると思います。さらには、たまたま、私が高校大学と硬式野球部の経験者で、他方面(麻布学園 攻玉社など)からの支援があり、現在の大崎高校でのグラウンド状況や施設状況の中でもきちんとした指導ができると思っていたからです。

③ 橋本先生が硬式野球部を創設しようと考えられたのはなぜか。実現まで克服しなければならなかった障壁はどのようなものがあったのでしょうか。またそれを乗り越えるにはどのような苦勞がお有りでしたでしょうか。

A 今までの大崎高校野球部は軟式でしたが、一昨年私が異動して来てその現状を見ると、挨拶 礼儀 マナーなどあまりにもひどく、いい加減な状態であったことが今まで、私が野球を通して指導してきた人生の中で許せなかったことが一番です。しかも、軟式野球は知名度も低く、校長の大崎高校の改革の中で、部活動を通して、知力 体力を高め人間性豊かな生徒を作る意味からも野球部を立て直した方がよいと思いつち上げることになりました。

さわやかな風がそよぐ青空の下、橋本監督と伊堂寺顧問にお会いし、約三時間練習を見ながら楽しく対談させて頂きました。

部の雰囲気は、新たに11名(内女子マネ1名)の新人部員を加え、全員が大きな声を出し、気迫に満ちた練習で、正に躍動感溢れこれが若さかこれが青春かと感動的です。毎日曜の地域清掃活動と、野球部だけではなく大崎高校そのものも大きく躍進するであろう事を確信した一日でした。以下、紙面の関係上抜粋的に対談内容を。

表現するまでの障壁として、一番に残りなのは、今年卒業した3年生への思いが一番あります。

本日の高校野球を伝えることができません。残念です。本来であれば、昨年の夏現新3年生とともに、入場行進をさせてあげたかったのですが、私の思いが伝わらず実現できませんでした。

さらには、道具面での障壁もありました。特に硬式野球の道具と言えば、一つ一つがとても高価で金額が高く、練習球には特に困りました。そんなときに、私の麻布学園の先輩から、バットやボールを借りてまかになったりしました。

グラウンド面でも同様に本校のグラウンドでは思うような練習ができないため麻布学園や攻玉社高校と合同練習をさせていただいています。

実はいまバットとボールは他校から中古品を買って練習しています。

〔注〕新品バット：一個五百円、新品ボール：一本二百五十円

④ 全国高校野球大会に出場するようになったからには、部の持続性が必要と思われませんが、その展望は如何でしょうか。サッカー熱との絡みなど近年の生徒の志向と考え合わせてお考えをお聞かせ下さい。

A 高校野球は日本の国民的スポーツと言っても過言でもなく、人気が高く特別な環境にあると思います。(メスメアや新聞雑誌での取り上げ方、野球の人口はいくらサッカー



校内での練習は、グラウンドでは思うような練習ができない。バットやボールも他校から中古品を買って練習している状況です。せめてバッティングマシンがあれば…

熱(Wカップやオリンピック)が高くなったと言われ、私も勝てないのではないかと感じています。

日本人の道徳心や物の考え方が野球道として置き換えていけるため大崎高校野球部が途中で途切れることはないと思われま。また、途切れることが無い様次期指導者の育成も大切なことだと思えます。

品川区、大田区、目黒区の小中学生の野球人口も多く、また都教育委員会より「スポーツ推進校」に指定されたいま、指導がきちんとしていければ、入部者は減るとは思いません。このようにことから、現野球部員21名がどれだけ結果を残してくれるかがこれから夏の大会に向けての課題だと思つています。

⑤ 硬式野球部が出来た以上、国立高校にはじまり、小山台高校のように甲子園に行くことが究極の夢でしょうか、当面はどのような目標を掲げるのでしょうか。

A 終業式でも全校生徒の

前で発表しましたが、どんなに弱いチームでもチャンスがある限り甲子園出場を目指しています。しかし、私の指導方針は野球の技術を教えるのではなく野球を通して人としてのあり方や生き方、考え方を教えているつもりです。だから卒業して大崎高校野球部で良かったと自信と誇りを持って練習につけたいなごです。

⑧ 学校、PTAに協力をお願いしたいことがあれば、差し支えない範囲でお話し下さい。

A 道具面の援助をお願いしたい。

今一番欲しい物はバット、イングマシンです。同窓会からの寄付でもあれば幸いです。横断幕や応援幕などもあればもっとと盛り上がると思えます。

⑨ 老若を問わず卒業生たちも、母校野球部の活躍に夢を与えてもらっています。何か同窓会に望まれること、渡部事務局長には数々のアドバイスをいただき感謝しております。

大崎高校はわが雪谷高校とその昔同一学校群であり、同じく女子実習補習学校からスタートしており、また雪谷高校で副校長をしていただいた渡部事務局長が、次の任地として大崎高校に赴任

明治44年4月、大崎女子実業補習学校として開校した大崎高校。その2年後の大正22年4月、調布女子実業補習学校として雪谷高校が開校しました。ともに女子実業補習学校として始まり、昭和23年4月新制高等学校となり、25年1月、新制の冠称を取り、東京都立大崎高等学校、東京都立雪谷高等学校になりました。その後、昭和42年に学校群のスタートで第13群、57年のグループ制により12グループとなり、平成6年にグループ制は終了しました。ご周知の通り、大崎高校は平成23年、雪谷高校は25年に創立百周年を迎えました。記念誌「雪谷の百年」はA5サイズで304頁、大崎高校に昭和59年4月から平成5年3月まで赴任された社会科の辻忠則先生が中心になり編集されたそうです。

このように縁の深い両校ですが、皆さんの身内にも大崎・雪谷の卒業生がおられると思います。大崎の百周年の記事は「昨年発行の(梧桐会報第58号)にて大々的に報じられております。本号では雪谷高校の百周年の記事を、実行委員長を務められた葛巻前副会長(雪谷高校同窓会)会長にお願いしました。(事務局 渡部良彦)

雪谷高校百周年事業を振り返って

雪谷高校百周年事業実行委員長 葛巻 正一



雪谷高校創立百周年の行事を2年後に控え、私は平成23年10月に大崎高校の百年の行事に、同窓会(螢友会)代表として参加させていただきました。大崎高校としては、招待者の対象を、東京都関連、都立高校のPTAを中心に考えており、同窓会を招待するのは考えていなかったよう、招待人数の関係で一度は断られました。代表として参加させていただき、両校の歴代の学校関係者の学校運営に対する熱意と努力の結果であると思えます。

現在の学校制度になってから、幾多の都立高校が統合廃校になりましたが、大崎高校、雪谷高校共に百年の歴史を積み重ねて参りましたことは、両校の歴代の学校関係者の学校運営に対する熱意と努力の結果であると思えます。

雪谷高校は、部活が盛んですが、特に野球部が平成15年に甲子園に出場して以来、同窓生の学校への求心力も高まり、百周年の行事に大いにプラスになりました。また、百周年事業につきまして、記念式典・祝賀会、記念誌の発行など学校員たより」もぎゅうぎゅう詰めで、この分では「進路状況」が収まらない。一時は「編集後記」まで割愛か?と思いましたが、この量り取まりきることになった。この記事、とにかく野球部の



鏡開き

6月盛大に行っており、同窓会としては二つの百周年行事を挙げることにしています。

各校の同窓会とも数々の対処事項を抱えておりますので、近いうちに、大崎高校、雪谷高校が中心となり近隣の品川区、品川区の他、高校を含めた同窓会の情報交換の場が、設けられたらと思えます。

員たより」もぎゅうぎゅう詰めで、この分では「進路状況」が収まらない。一時は「編集後記」まで割愛か?と思いましたが、この量り取まりきることになった。この記事、とにかく野球部の

現状をご理解頂けたらと思つております。野球と言えは雪谷高校、大崎高校と縁の深い雪谷高校は昨年、百周年を迎えました。実行委員長の葛巻さんにお願ひして振り返っていただきました。

◇4月16日16時09分、最後の原稿が投稿しました。やつとこの数字が埋まった。◇今年の同窓会は5月11日(日)です。皆様がいっしょやるのを受付でお待ちしております。(なへちゃん)

編集後記

有志同期会

中村和夫・生駒勇美 (昭和41年度卒)
S41卒のホームページ

http://www.geocities.jp/osakhss41/



昭和41年度の卒業生ではこの1年間で5回の有志同期会を行いました。

(1) 昨年の梧桐会総会が行われた、5月12日(日)の午前中には「等々力溪谷の散策と古墳の見学」を行い、男性10名、女性4名が参加しました。(写真)

(2) 昨年8月11日(日)には江東区の深川で「暑気払い」を行いました。男性6名、女性2名が参加し、

清澄庭園と古くからの町並みが残る門前町の深川不動尊、富岡八幡宮などを散策しながら高校時代に帰り、楽しい時間を過ごしました。

深川江戸資料館の見学後は近くにある同期生が運営する画廊「ギャラリーAs」で「紙の結晶の世界展」を鑑賞しました。

(3) 昨年11月17日(日)には都内で「和風と洋風の名庭園巡りと昼食会」を行い、

会員だより

高校時代は英語の渡辺先生の授業中、ランダムにあてられるのが怖かったことを覚えています。

「では次」の声に教室が緊張した空気に包まれました。私はあたる順番さえわかれば前もってそこだけ勉強しておけばいいと思ひ、あてられた人の名前を書き抜いてみたのですが、そ

みると、厳しいけれど温かく優しい先生で、困ったところがあると親身になってくださりました。

クラブは体操部に所属していましたが、同学年の人でも同じクラスにならないと話さず機会はないのですが、部活の中ではクラスが違っても仲良くなることのできる、個人的な人たちと知り合うことができました。そして大好きな先輩たちをタベ先輩、ジャリ先輩、キー先輩、ソーマ先輩と愛称で呼び、慕っていました。

卒業から30年以上が経ち、戸越公園の駅に降りることも大井町線に乗ることもあまりないのですが、何年か一度、大井町線に乗った時には、必ず駅から学校を正確に、後ろ(前?) 2両

による詳細な説明を受けましたので、歴史の新発見が沢山ありました。

現在を一生懸命に生きること、禅語で「而今(にこん)」と言うそうです。今日が本番、今日が本番の一瞬こそが本番、という覚悟で毎日を生きていることが大切だと感じています。人生は今を積み重ねて成り立ち、過去の今によって現

思い出す先生の言葉



山城(元木) 規子 (昭和55年度卒)

のドアが開かないことを確認し、高校時代のことを思い出します。

今も高校時代の同級生と交流があるからでしょうか、なぜか大崎のことはいつも身近に感じています。

在があり、現在の今が未来をつくる。だから、「いつやるの?」今でしょ! は意味深長な言葉だと思います。

次回は今年5月11日(日)の「母の日」の午後には恒例の大崎高校同窓会「梧桐会総会」が母校で開催されますのでお会いしましょう。

47年振りの再会

相原 恒雄 (昭和40年度卒)

50年振りという大雪が先週降り、いまだに道路脇に雪の残骸がそこかしこに残る2月22日昼下り、珍しく明るい日差しの中、いそいそと懐かしい戸越公園駅を降り、駅から1分の居酒屋「おはん(貸切)」の暖簾をくぐる。一人入る度に、「オッ!」という歓声が起るのかと思えば、歓声なくどなたなのか判明するまでの静寂もしばしば。

我々は昭和41年3月卒業で、66歳。物理の宮城元勇先生の担任された3年間、

今回またまたHPを覗いて住所変更をお願いし、原稿を書かせていただくことになりました。ここに宮城先生(8年前に他界)がいられれば喜ばれるでしょうが、もし参加されていれば彼の個性の強いご指導を

当時の大崎は3年間クラス替えがなかったため、入学式に出会った友達と卒業までずっと一緒に過ごしました。卒業後も付き合いは続き、海に行ったりスキーに行ったりお酒を飲んだり、それぞれが家庭を持つようになつて会う回数は減つていってしまつたけれど、長い付き合いになりました。この先もずっと続いていくんだろうと思える友人にめぐり合うことができ、本当に感謝しています。

折に触れ思い出すある先生の言葉があります。それは地学の中山先生がおっしゃった「90点80点取ろうとすると苦しくなる。70点か60点位を目指せばぐっと気が楽になりますよ」という言葉。その時は顔面どおりに受け取って、「そんなこと試験前に先生が言っているのかな。ユニークな先生だ

平成3年度同期会



2014年2月22日(土) 五反田ドンコナコネリーにて開催しました。

なあ。」と思つたものです。でも大人になつてある時ふと思い出し、それ以来私にとつてありがたい言葉となりました。もちろん何事も手を抜いてはいけないのだけれど、必死になり過ぎて見えなくなつてしまつたことはよくあるもので、そんな時「何もかも上手くやろうとするのはやめよう。70点

あれから14年

蓬田 哲也 (平成11年度卒)

早いもので大崎高校を卒業してから14年が経ちました。そして同窓会の幹事になつてからも14年。過去に1度10年くらい前にこの会報の原稿を書いたことがあり、もう半分書くことはないだろうと思つていました。が、どうも回つてきてしまいました。毎年度末頃になると事務局長から「誰か原稿を」という言葉を聞いており、毎年逃げ回っていました。今年も逃げ回れそうもない様子だったので書くことにしました。

ただ、過去の会報を見ると大先輩方が書いていたり、旧教職員の方が書いていたり自分なんか書いてもいいのだからかとも考えてしまいましたが、ここ数年は幹事が書いていないということもあり今後には続けたいなどと思ひ書くことを決意しました。

旧校舎時代に入学し元々校庭があつた場所に新校舎を作るといふことで1年の途中から校庭がなくなり、体育の授業をするために下神明の近くの広場まで皆で歩いて行つたり、時間が遅かつたりするのと走つて行つたりしていたことを懐かしく感じています。新校舎が出来上がったのは3年生の途中、今では普通の事かもしれませんが、全教室にエアコンが付いていた事、生徒1人1人に鍵付きのロッカーがあつたことに皆で騒



最後に、今年も母の日に同窓会が開かれます。楽しい一日が過ぎるようには我々幹事は頑張っています。皆様のお越しを母校大崎高校でお待ちしております。